

# HPH介入シートを使用した経済的困窮者・社会的孤立者への介入

筆頭演者 湊隆一<sup>1)</sup> 共同研究者 野口愛<sup>1)</sup> 山原美里<sup>1)</sup> 結城由恵<sup>1)</sup>

1)所属事業所、公益財団法人 淀川勤労者厚生協会附属 西淀病院

## 1. 背景・目的

経済的困窮や社会的孤立は人々の健康を害する社会的決定要因である<sup>1)</sup>。入院を契機に2つの要因への介入が必要な患者を見逃さないために新たに介入方法を導入し実践したので報告する。

## 2. 研究方法

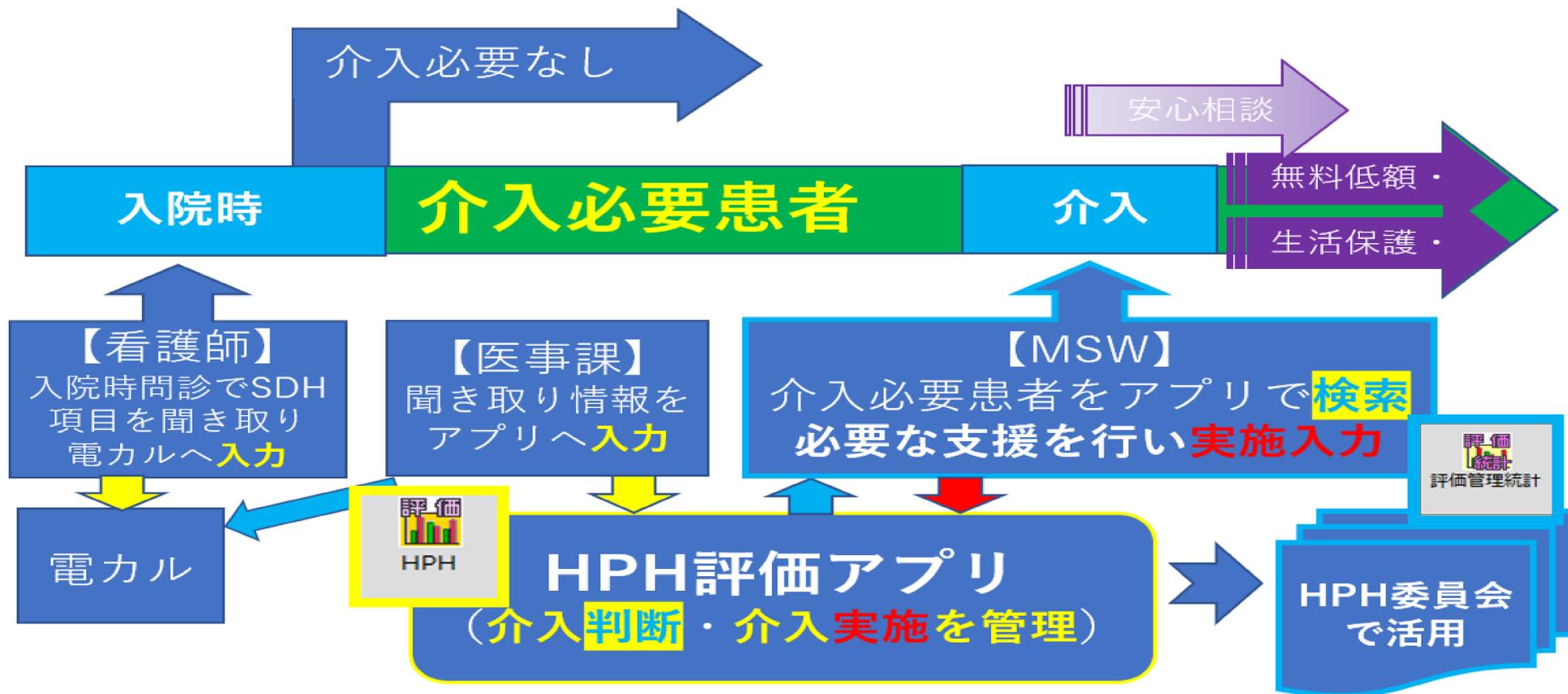
当院で用いていたHPH介入シート（喫煙,アルコール,栄養状態,運動）に2021年4月から「医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度<sup>1)</sup>」の項目を新たに追加した。項目の聞き取りは問診票に組み込み、入院時に聞き取りを行っている。介入の判断基準は、この1年で家計の支払いに困ったことがある方。この1年に給与や年金の支給日前に暮らしに困ったことがある方を経済的困窮介入者とした。また、友人・知人と連絡（方法は問わない）をする機会がない方。家族・親戚と連絡する機会がない方を社会的孤立介入者とした。抽出された介入者への関わりは、現在、コロナ禍であるため経済的困窮介入者のみとしソーシャルワーカーが、介入必要者への面談を行い支援が必要な方に対し適切な制度に繋いでいる。

## 3. 結果

HPH介入シートで経済的困窮介入者と判断された人数は4月1日～9月30日までに64名だった。（総数780件）ソーシャルワーカーが介入し無料低額診療へ21名、（介入シートによる関わり12名）生活保護制度へ3名（介入シートによる抽出2名）が繋がった。

## 4. 考察

①当院への入院を機に今まで見逃されていた経済的困窮者を拾い上げができています。②介入データを担当委員会等で分析、検討できる仕組みが導入できた。③問診だけでは、介入必要者を全て抽出は出来なかったがソーシャルワーカーの業務支援、ダブルチェック的な機能を有している仕組みであることがわかった。④今後、継続普及させるためには、医事課入力作業がなくても直接データ処理できるソフトの開発が望まれる。



参考文献<sup>1)</sup> 西岡大輔、上野恵子、舟越光彦、斉藤雅茂、近藤尚己  
医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度の開発。  
日本公衆衛生雑誌2020年6巻7号 P461-470

日本HPHネットワーク  
利益相反(COI)の開示

筆頭演者名: 湊 隆一  
共同演者名: 野口愛、山原美里、結城由恵

筆頭演者ならびに共同演者に開示すべきCOIはありません。